

ヘルスアセスメント	1年・後期	1単位	教授 赤石 三佐代 助教 松崎 圭子
科目カテゴリー	看護提供のあり方	科目ナンバリング	33110561

1. 授業のねらい・概要

ヘルスアセスメントとは人々の健康状態を身体的・精神的・社会的な視点から総合的にアセスメント（評価・査定）することである。看護におけるヘルスアセスメントの目的・意義を理解し、アセスメントに必要な知識および技術を学ぶ。特に身体的なアセスメントでは、フィジカルイグザミネーションの技法を用いた人間の生活行動のアセスメントについて学ぶ。

2. 学修の到達目標

1. 看護におけるヘルスアセスメントの目的及び意義を理解する。
2. アセスメントに必要な情報を収集するための技法がわかる。
3. 収集された情報を基に健康状態の正常と異常（正常からの逸脱）を判断できる。

3. 授業の進め方

講義とフィジカルイグザミネーションの技法を学ぶ演習を組み合わせる授業を進行する。
事前課題を与え、フィジカルアセスメントの理解を促進する。

4. 授業計画

<ol style="list-style-type: none"> 1. ヘルスアセスメントの目的・意義、全身状態の観察、身体診察の技術 問診・触診・聴診・打診（赤石三佐代） 2. バイタルサインの観察とアセスメント（赤石） 3. 4. バイタルサインの測定①（赤石） 意識状態、体温・脈拍・呼吸・血圧の測定 5. バイタルサインの測定②（赤石） 記録、コミュニケーション 6. 肺と心臓の動きを考えよう。（赤石） 7. 8. 呼吸の音、心臓の音を聴いてみよう。 呼吸音の聴診・心音の聴診（赤石） 	<ol style="list-style-type: none"> 9. 10. 食べて消化され排泄されるまでを考えよう。 腹部の聴診・触診・打診・観察（松崎） 11. 技術評価試験（バイタルサイン測定）（赤石・松崎） 12. 13. 動くことを考えよう。（松崎） 関節可動域測定、徒手筋力テスト、反射（松崎） 14. お風呂に入ることを考えよう。（赤石） 15. 人間の生活行動のヘルスアセスメントを考える。（赤石）
---	---

5. 成績評価の方法・基準

定期試験 50%、技術評価試験 30%、課題・演習記録 20%を総合的に評価する。
定期試験の受験資格は3分の2以上の出席とする。

6. テキスト・参考文献

- ①松尾ミヨ子他（2019）：ナシグセラフ 基礎看護学② ヘルスアセスメント メグ出版
- ②守田美奈子監修（2019）：看護のためのフィジカルアセスメントアドバンス イタメグ

7. 準備学習に必要な時間、又はそれに準じる程度の具体的な学習内容

- ・授業前に必ずテキストの予定範囲を予習し（1時間以上）、事前学習課題を提出すること。
- ・演習記録は演習の実施結果、考察を記述して提出する。
- ・バイタルサイン測定技術に対して3回以上の自己練習を必要とする。

8. 受講上の留意事項

- ・講義内容に応じて事前に「人体の構造と機能」について復習しておくこと。

9. 課題に対するフィードバックの方法

- ・事前学修課題、演習記録はコメントして返却し、復習に活用する。
- ・定期試験の答えは返却しない。模範解答もしくは解説を掲示する。

10. 卒業認定・学位授与の方針当該授業科目との関連

- ・必修科目であり、修得できない場合進級不可となる。
- ・2年次の「受け持ち看護実習」の先修科目である。